

TSUBASAシステム共同化

2022年7月26日
株式会社 **千葉銀行**
(東証プライム市場 : 8331)

提携戦略

千葉銀行の提携戦略	3
提携効果額	4
システム経費	5
TSUBASA FinTech共通基盤	6

TSUBASAシステム共同化

TSUBASAシステム共同化の歴史①②	8-9
TSUBASA共同化システム	10
基幹系システム共同化の範囲	11
基幹系システム共同化全体スキーム	12
サイト構成	13
開発体制	14
基幹系システム共同化（地銀）	15

TSUBASA Smile・ペーパーレスシステム

動画視聴	17
本部集中化・TSUBASA事務共同化	18



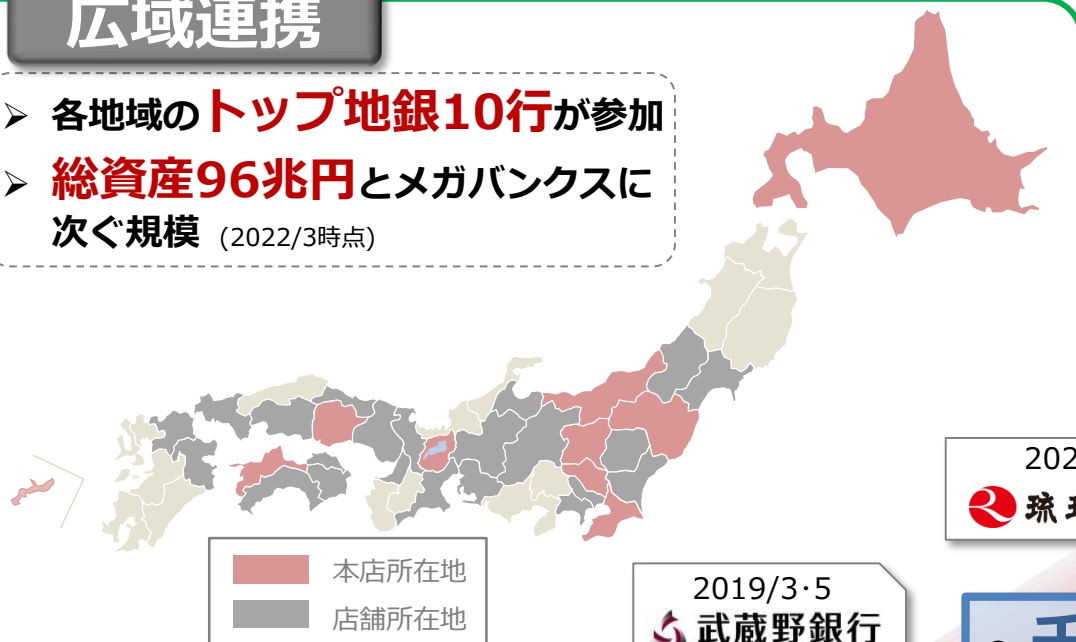
提携戰略

千葉銀行の提携戦略

3つのアライアンスを展開

広域連携

- ▶ 各地域の**トップ地銀10行**が参加
- ▶ **総資産96兆円**とメガバンクに次ぐ規模 (2022/3時点)



2020/12
群馬銀行

● TSUBASAアライアンス(株)内に事業戦略部を設置 (2021/10)

2020/4
琉球銀行

● TSUBASAアライアンス(株)設立 (2020/7)
同社内にAMLセンターを設置 (2020/10)

2019/3・5
武蔵野銀行
滋賀銀行

● **千葉・横浜パートナーシップ**発足 (2019/7)



● TSUBASA FinTech 共通基盤稼働 (2018/4)

2016/3
伊予銀行
東邦銀行
北洋銀行

● T&Iイノベーションセンター設立 (2016/7)
※TSUBASAアライアンスで設立したFinTech企業

首都圏連携

2015/10
千葉銀行
第四北越銀行
中国銀行

● **千葉・武蔵野アライアンス**発足 (2016/3)



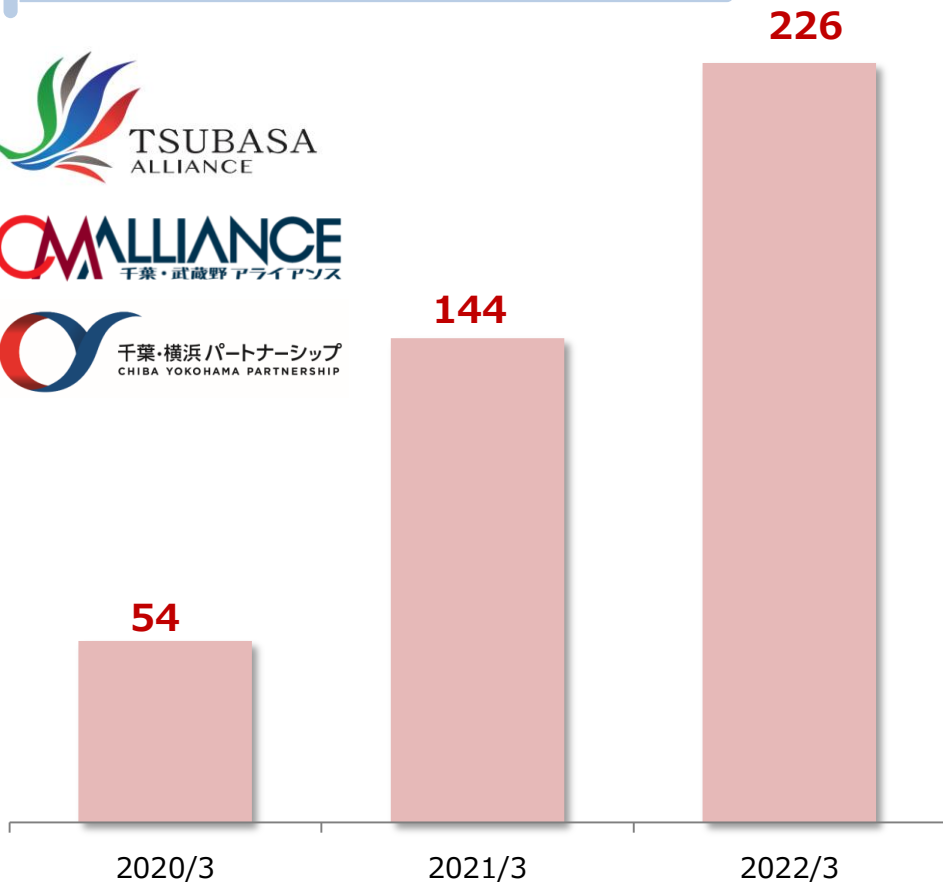
● **TSUBASAアライアンス**発足 (2015/10)

提携効果額

3年で200億円超の提携効果額を積み上げ

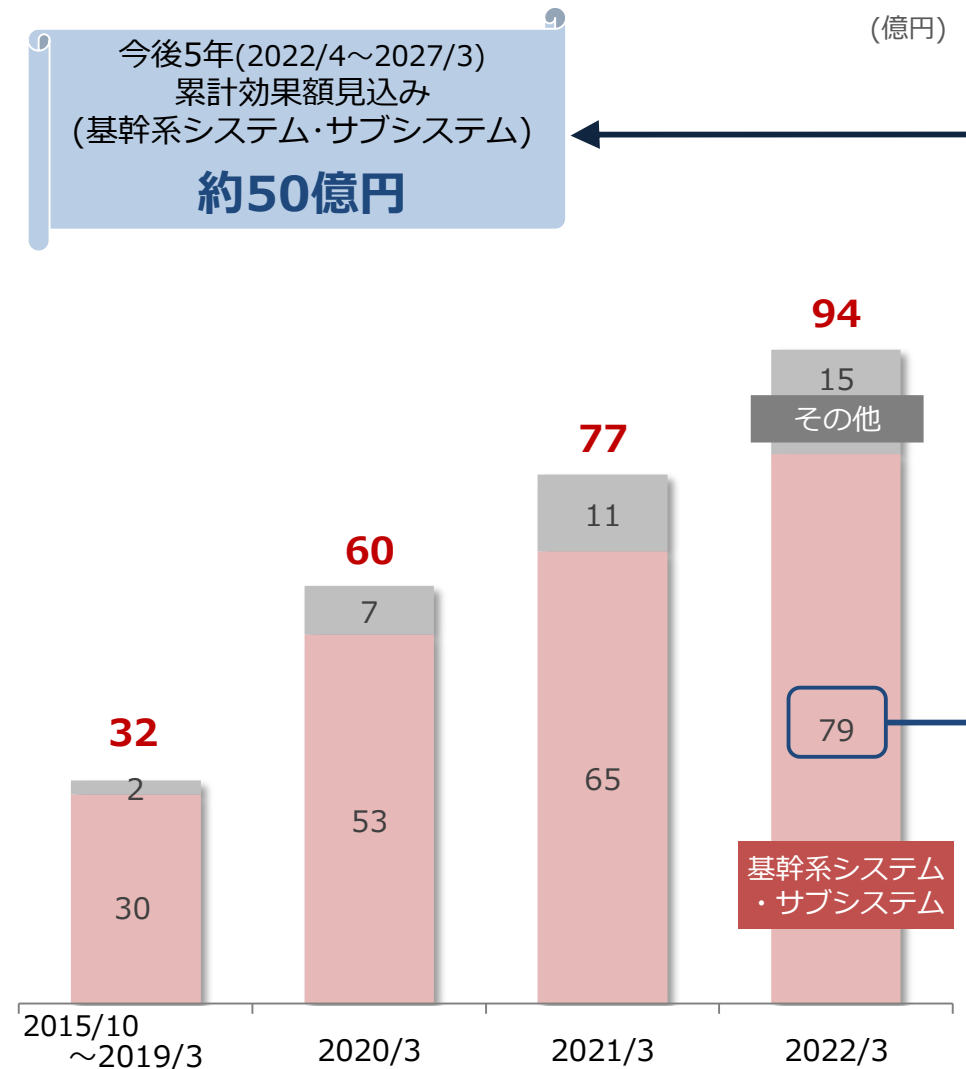
3アライアンス合計 累計提携効果額 (当行単独)

3アライアンス発足後 (2019年度～)
合計累計効果額
226億円



うち、TSUBASAアライアンスコスト累計削減効果額 (当行単独)

今後5年(2022/4～2027/3)
累計効果額見込み
(基幹系システム・サブシステム)
約50億円



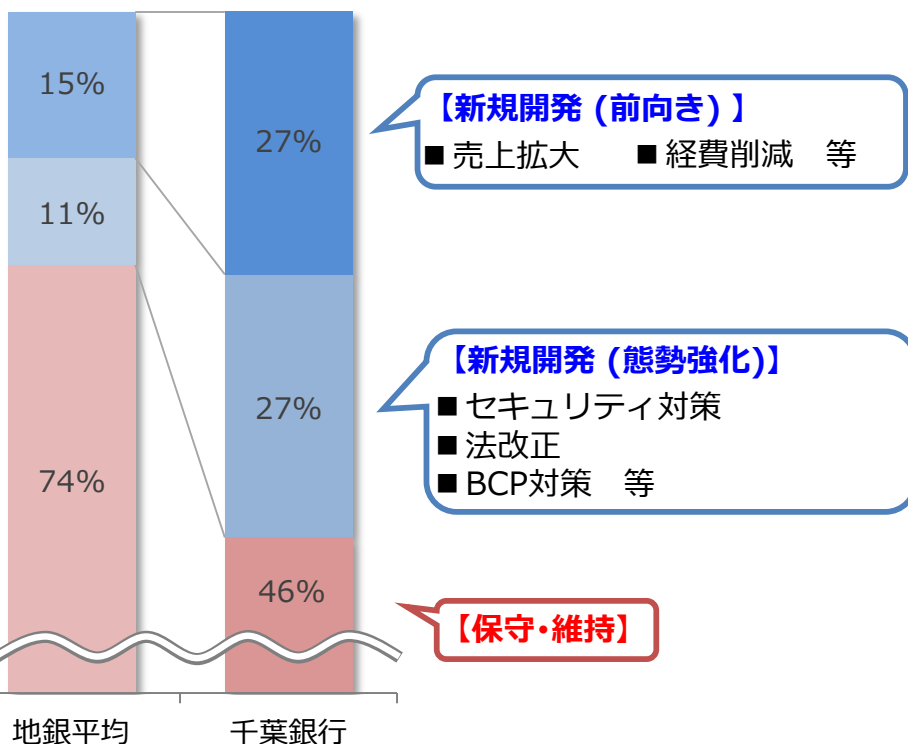
システム経費

アライアンス活用、過去からの低コスト運営の徹底により、システム経費を抑制

IT関連投資・経費の目的別割合

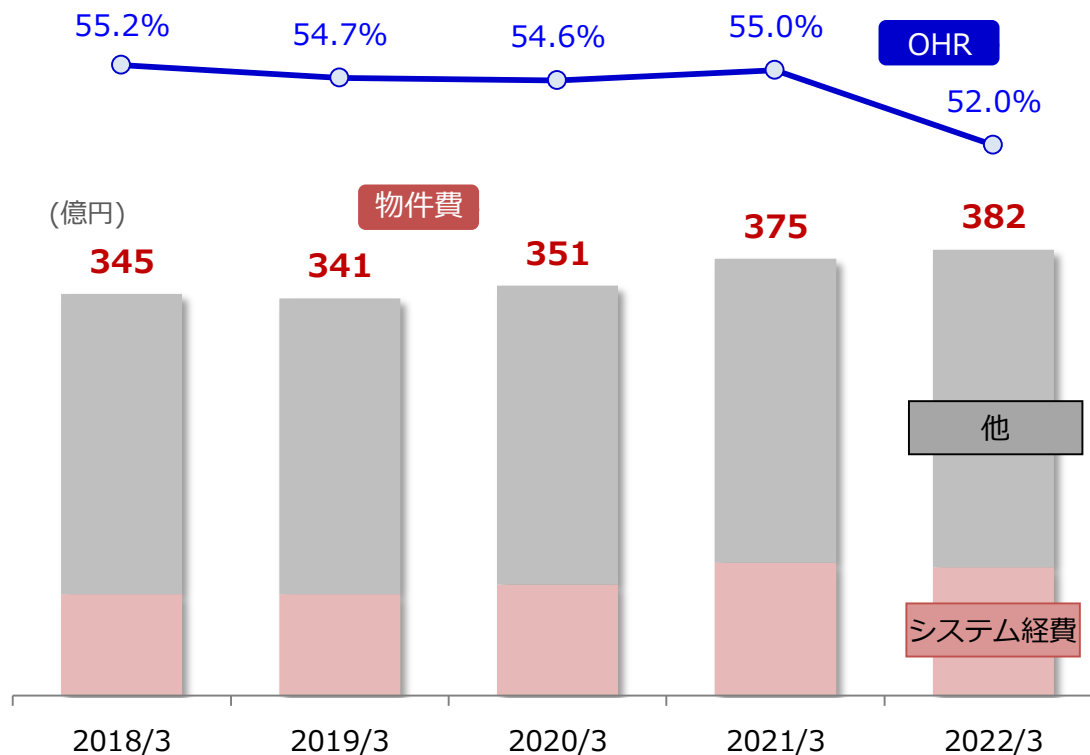
アライアンス活用や過去からの低コスト運営の徹底により、**システム経費を抑制**

保守・維持費用を抑制することで、前向きを中心とした**新規開発に多くの経営資源を配分**



地銀平均：金融庁「金融機関のITガバナンス等に関する調査レポート」
千葉銀行：2022/3期実績

OHR・物件費・システム経費の推移



システム投資案件の審査体制

費用見積額	決裁方法
30百万円超	システム投資審査委員会
50百万円超	システム投資審査委員会 及び、 経営会議

システム投資審査委員会・経営会議で、**投資効果を最長5年間確認し**投資妥当性を検証

TSUBASA FinTech共通基盤

新しいサービス・機能は共通基盤で開発し、サービス提供は全て共通基盤経由で

TSUBASA FinTech共通基盤コンセプト

既存のインターネットバンキング（IB）にとらわれず、広く外部と連携できるようにする

「可能な取引」「対象ユーザー」の拡大

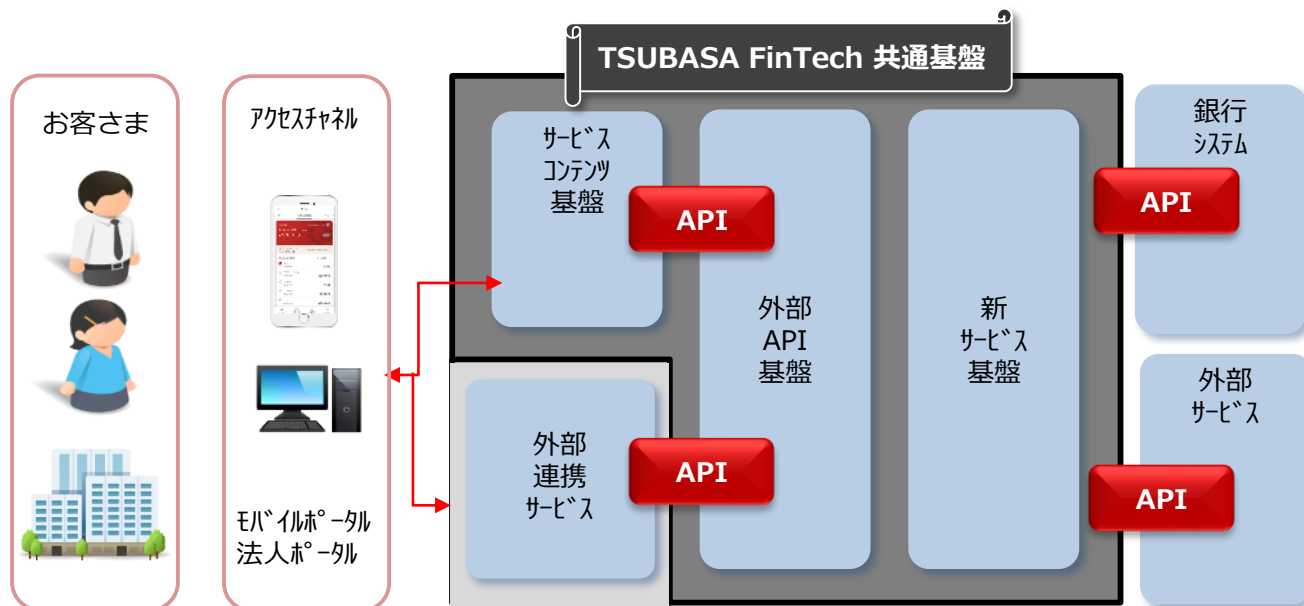
既存のIBの制約から逃れ、自営システムの位置づけとする

「柔軟に、スピーディに開発」

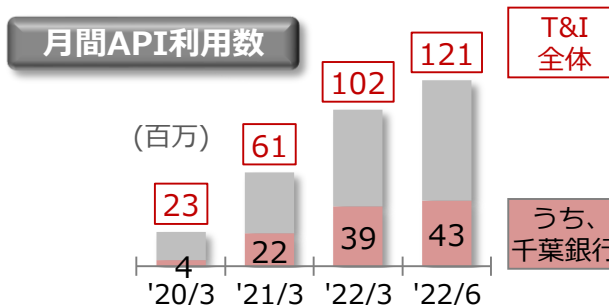
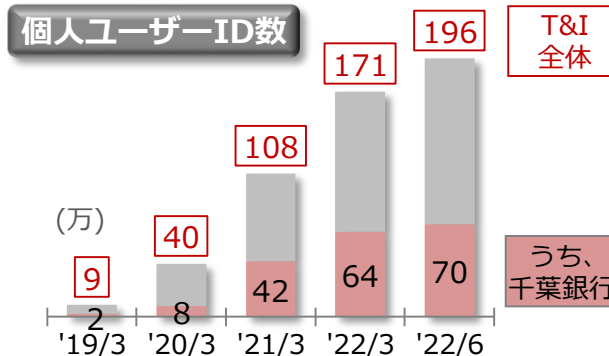
既存IBに支払う従量制料金の制約から解放される

「固定料金により、連携を加速」

全体像

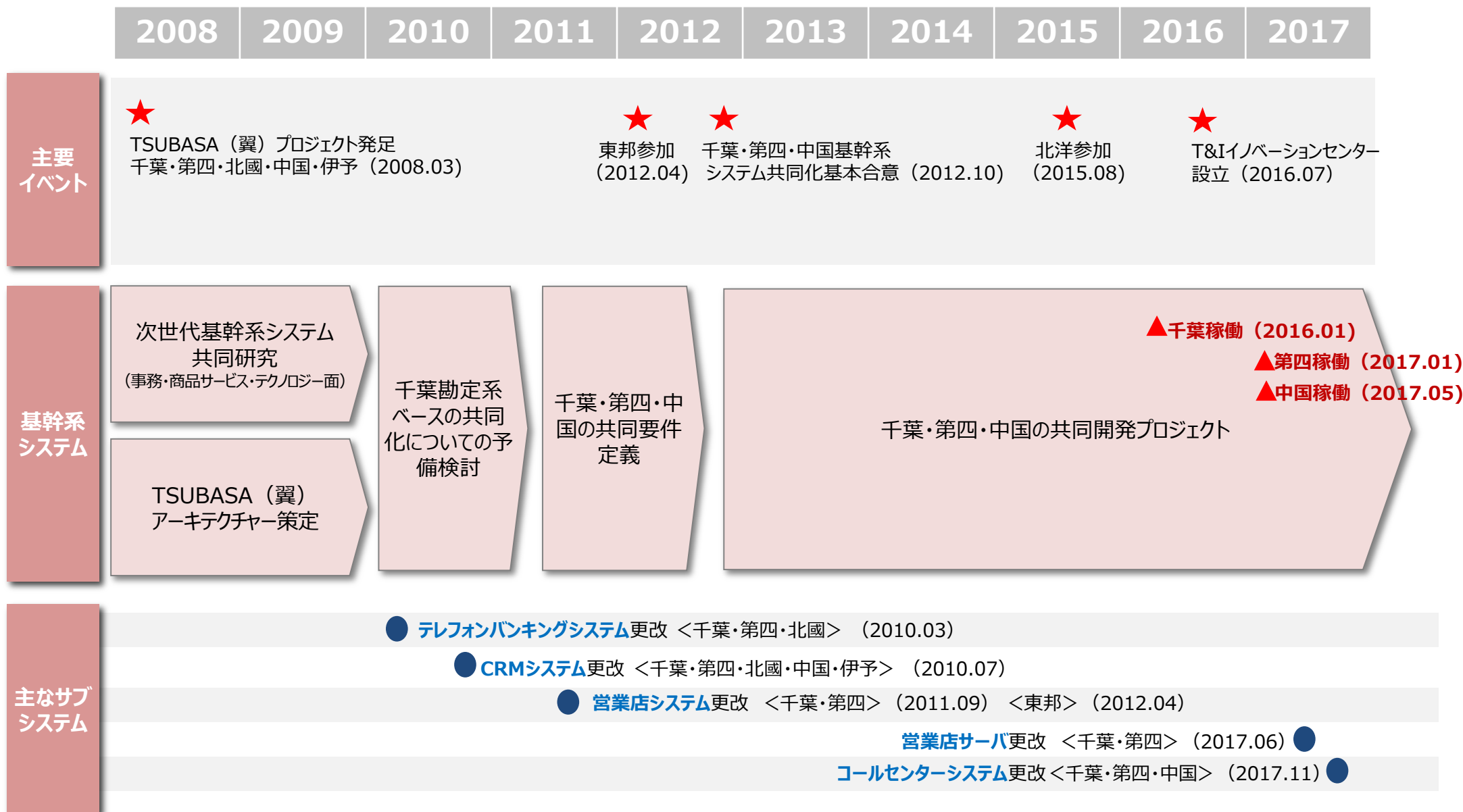


API実績



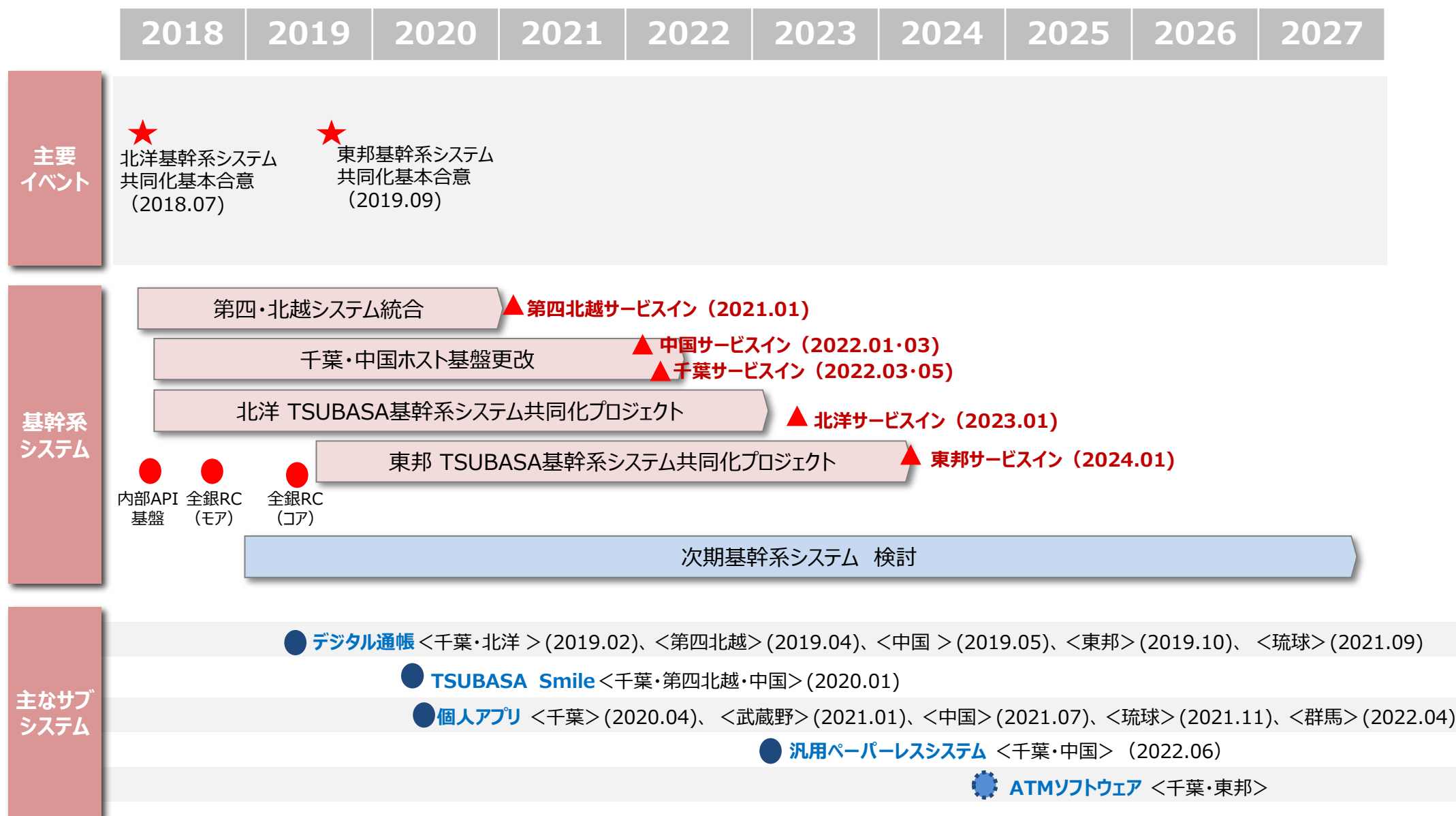
TSUBASAシステム共同化

TSUBASA システム共同化の歴史 ①



※ 導入時期は当行ベース

TSUBASA システム共同化の歴史 ②



※ 導入時期は当行ベース

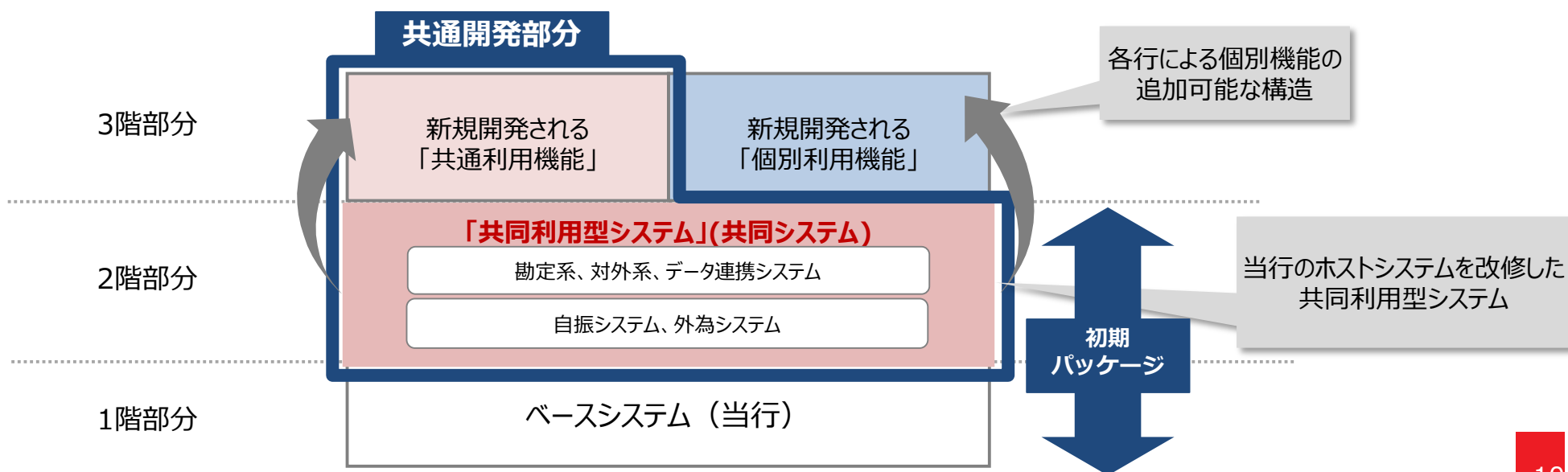
TSUBASA共同化システム

各行が対等な立場で、基幹系システムおよびサブシステムを共同開発、共同利用、運用保守共同委託

基幹系システム共同化のメリット

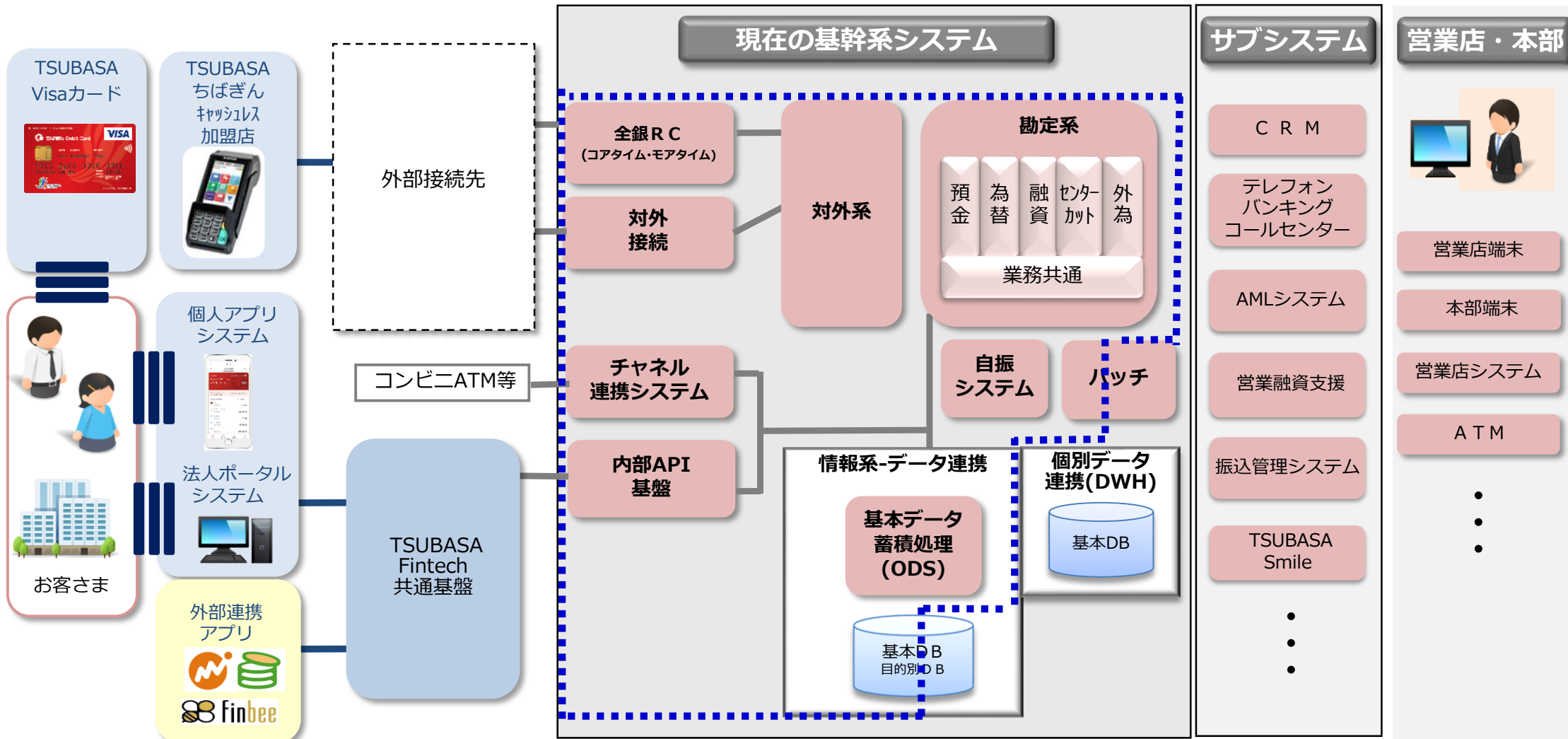


基幹系システム共同化の構造



基幹系システム共同化の範囲

勘定系・対外系のオンライン・バッチ、チャネル連携、内部API基盤などを共同化



基幹系システム共同化全体スキーム

アプリケーションの開発保守を日本 I B M、基盤運用をキンドリルジャパンに共同で委託し、開発や運用の費用を按分



千葉銀行



第四北越銀行



中国銀行



北洋銀行



東邦銀行

開発・運用の委託
要員出向によるコアスキル維持・ガバナンス確保

共同プロジェクト運営

共同運営協議体 (各社合議体)

- ・共同化スキーム企画、運営
- ・共同開発案件の調整
- ・所管部門間の情報交換 等

共同開発組織 (日本 I B M)

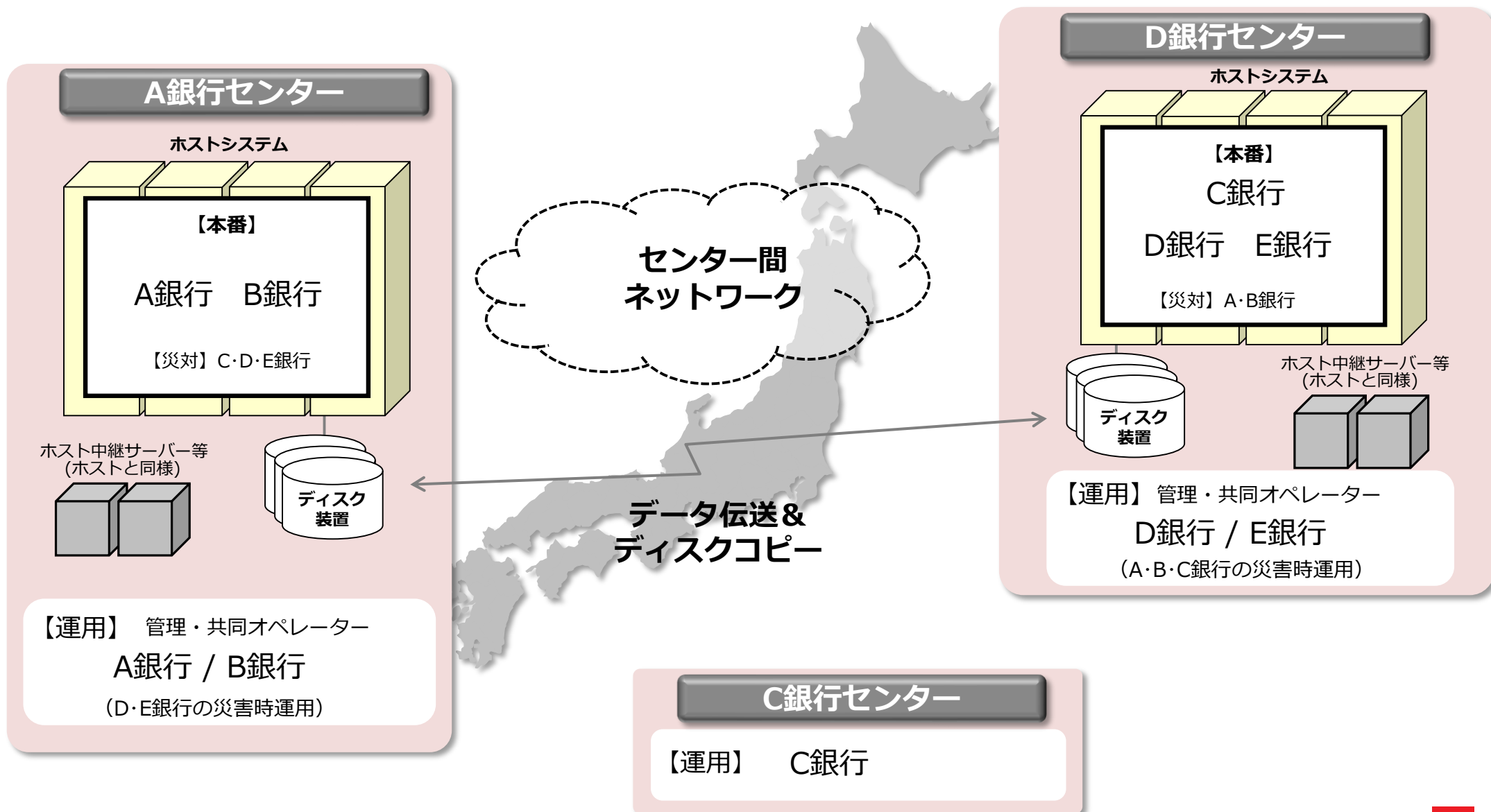
- ・システム開発の主体
- ・各行より出向受入 等

共同運用組織 (キンドリルジャパン)

- ・システム運用の主体
- ・各行より出向受入 等

サイト構成

2カ所へのホスト設置、3カ所でのシステム運用によるバックアップ体制


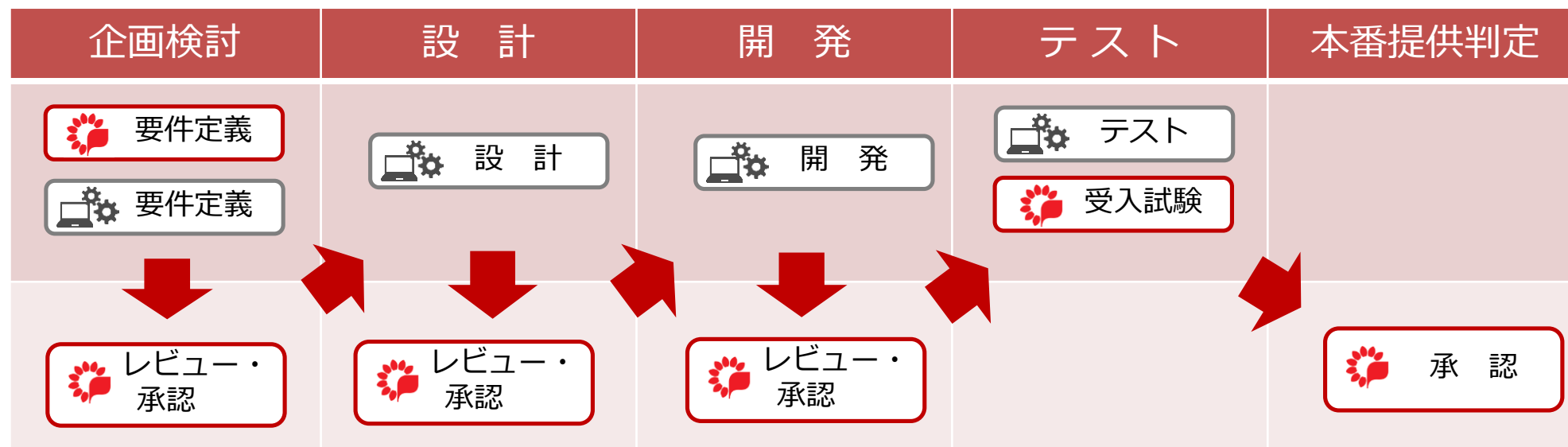


開発体制

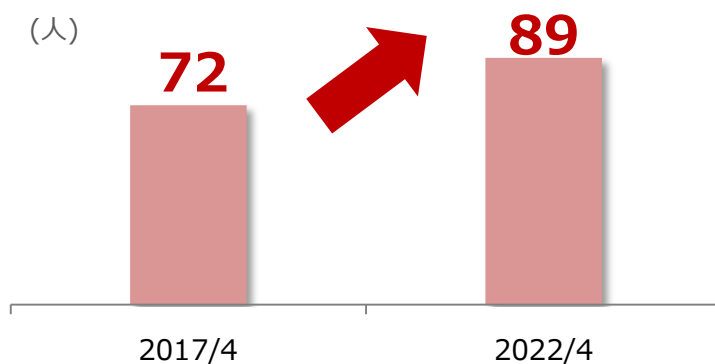
要件検討やレビュー・承認、受入試験を職員が実施する体制としており、重要部分のノウハウは維持

開発工程における役割分担

 銀行

 アウトソース先


システム部門職員数



- スキル、管理・チェック機能を維持するため、要員の削減は実施せず
- DX推進や円滑な世代交代を進めるため、システム部門の職員の増加を図る

基幹系システム共同化（地銀）

日本IBM
(25行→26行)TSUBASA
(3→5行)千葉、中国、第四北越、
東邦、北洋Chance
(8行)常陽、足利、百十四、
十六、南都、北九州、
山口、もみじFlight21
(4行)福岡、広島、十八親和、
熊本単独
(3→2行)伊予、島根、
北洋→TSUBASAへ富士通
(7行→3行)PROBANK
(3→0行)東邦→TSUBASAへ、
清水→STELLA CUBEへ、
西京→BankVisionへ単独
(4→3行)群馬、東和、富山第一、
滋賀
→次世代オープン勘定系へNTTデータ
(39行→40行)地銀共同センター
(13行)京都、岩手、池田泉州、
青森、福井、千葉興業、
秋田、四国、山陰合同、
鳥取、大分、愛知、
西日本シティSTELLA CUBE
(10→11行)東北、富山、きらぼし
但馬、神奈川、仙台、
名古屋、福邦、長野、
きらやか、清水BeSTAcloud
(9行)荘内、北都、福岡中央、
長崎、佐賀共栄、南日本、
豊和、宮崎太陽、沖縄海宝MEJAR
(5行)横浜、北陸、七十七、
北海道、東日本りそなHD
(2行)

関西みらい、みなと

BIPROGY (旧 日本ユニシス)
(10行→11行)BankVision
(10→11行)山梨中央、北國、スルガ、
大垣共立、百五、紀陽、
鹿児島、筑邦、佐賀、
西京単独
(1行)

福島

日立製作所
(15行→16行)Banks'ware
(2行)

肥後、みちのく

次世代オープン勘定系
(1→3行)

静岡、滋賀、京葉

単独
(1→0行)京葉
→次世代オープン勘定系へNEXTBASE
(11行)三十三、北日本、
大東、栃木、
大光、静岡中央、
中京、トマト、
香川、徳島大正、
高知NEC
(3行)単独
(3行)

沖縄、愛媛、東京スター

今後基幹系システムの変更が予定されている銀行

変更前（現在）

変更後（予定）

TSUBASA Smile ・ ペーパーレスシステム

動画視聴

動画をご視聴下さい



【店頭】



【本部オペレーター】



【検印センター】



リモート端末

ペーパーレスシステム

TV通話

遠隔確認・操作

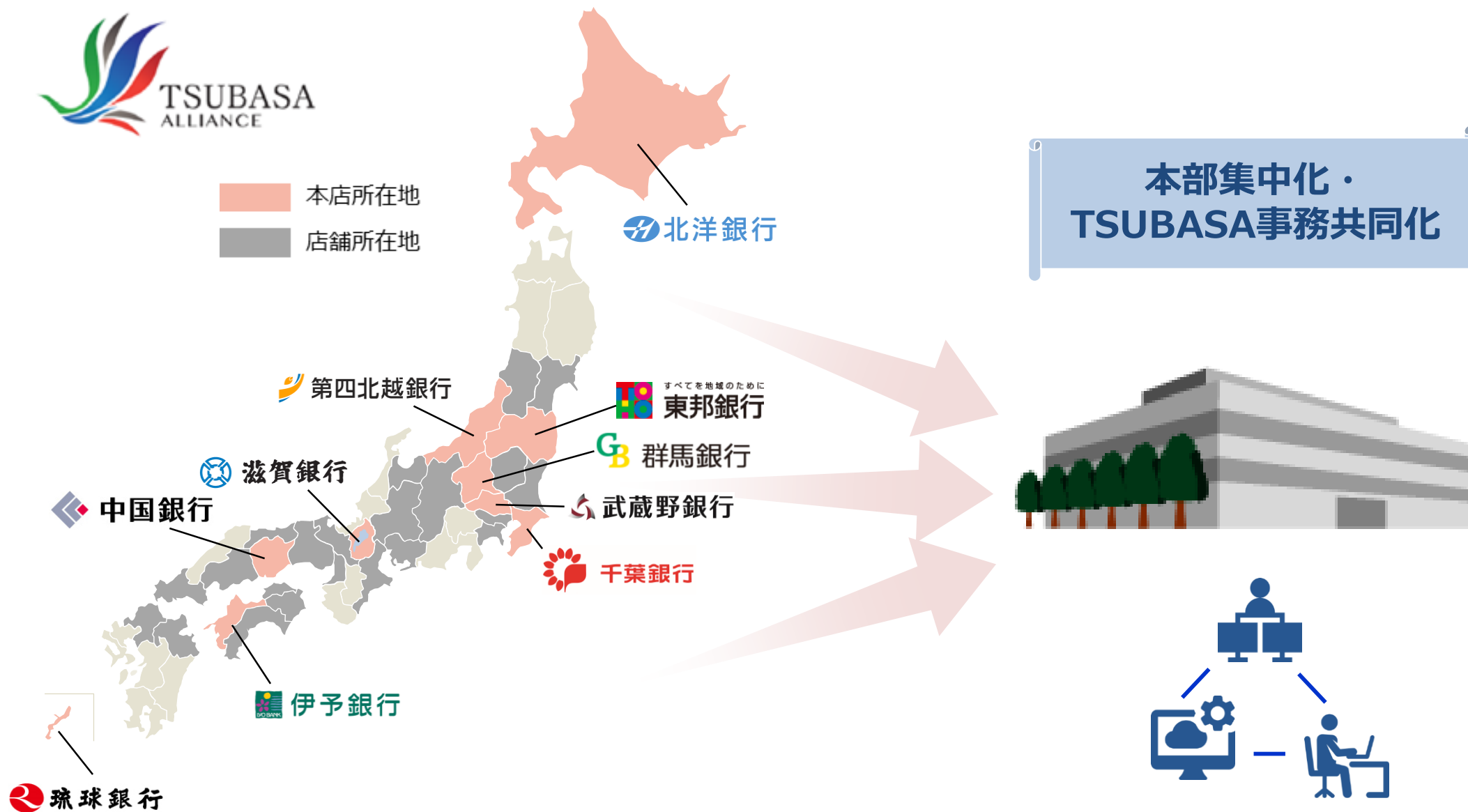
ワークフロー回付

承認

TSUBASA Smile

本部集中化・TSUBASA事務共同化

さらに効率的な事務処理体制の構築へ



本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459

Fax: 043-242-9121

E-Mail: ir@chibabank.co.jp

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。